

阮朝王宮の歴史的環境の復原- CG技術を活用した再現とGIS構築-

中川 武

(早稲田大学・理工学術院・教授)

【研究の概要等】

当該研究の前身は、1990年に国際機関・ユネスコの要請に基づく技術コンサルタント(当該研究代表者を派遣)を端緒とし、その後、科研費・国際学術研究の採択を得て行われた阮朝王宮の調査と、それに続いて「阮朝王宮の復元的考察」(科研費・国際学術研究)並びに「勤政殿の復元的研究」(基盤研究A)、また2002年度の「乾成宮の復元的研究」(基盤研究A、翌年、基盤研究Sの採択を得て辞退)及び2003年度から5年間の期間を持って現行進められている「乾成宮の復元的研究」(基盤S)と、これまで同一の研究代表者の下、一貫した研究活動が行われている。

この間、現地カウンターパートであるヴィエトナム社会主義共和国・古都フエ遺跡保存センター(HMCC)の技術研究員(8名)に対する研修を、独立行政法人・文化財研究所等の協力の下、我が国の文化財修理工事現場等において計画し、またHMCCとの共同調査の枠組み形成を進展させ、とりわけ研究拠点と成り得る研究施設を現地に開設するなど、総合的な研究環境の充実を図ってきた。また、97年と2006年には、勤政殿の再建計画事業に関するヴィエトナム社会主義共和国(以下、VN国と略)政府に対する提言を添えた報告図書を取りまとめ、VN国政府の文化財保護に資する行政機関等に配布・周知し、在ヴィエトナム・日本大使館にも適宜、進捗状況の報告を行っている。

研究の全体構想としては、ユネスコ世界遺産に登録されている「フエの建造物群」の学術調査を継続することで、失われた生産技術の体系を復元的に考察するという重点課題がある。阮朝王宮の歴史的環境の復原は、その中での不可欠な研究課題と云える。

【当該研究から期待される成果】

本研究は、ユネスコ世界遺産の保全に資する学術情報の提供を可能とするための、12年間に渡る早大・既往の研究活動の蓄積を踏まえて行われる。3次元CG作成の過程には、これまでの蓄積が有効に活用され、特に復原考察の最終案をまとめたい。予想される研究結果の一部は、阮朝王宮の宮殿建築の再建事業に資する学術情報を含んでおり、我が国の対東南アジア・国際協力活動の観点からの技術協力として、VN国側にとって重要な価値を持っている。

またユネスコ世界遺産の保全に資する学術情報の提供は、今回、対象とした「フエの建造物群」のみならず世界中に共通の課題を見出せるであろう。当該研究成果は、研究方法の確立という方法論にも言及し、海外関係諸団体からの注目に値する内容となることが見込まれる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・赤澤泰、中川武、溝口明則「プラサート・スープラ塔の基礎・基壇の構成と技法 アンコール遺跡“プラサート・スープラ塔”の建築技法に関する研究(1)」『日本建築学会計画系論文集』N0.613, p.189,2007.3
- ・中川武ほか3名「乾成宮の復元的研究(XIII) 大宮門について ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その118)」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, p.277, 2006.9
- ・中川武ほか4名「乾成宮の復元的研究(X) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その106)」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, p.459, 2005.9
- ・チャイヨシ・イサボラパント、中川武「A study on architectural documents of viharn (buddha hall) in lanna, northern Thailand : studies on traditional architectural manuals in Thailand」『日本建築学会計画系論文集』N0.577, p.189,2004.3

【研究期間】 平成19年度-23年度

【研究経費】 20,400,000 円

(19年度直接経費)

【ホームページアドレス】 <http://www.hist.arch.waseda.ac.jp/vietnam/index-J.html>